

# おおいた 法の海

第 49 号  
 発行所  
 浄土真宗本願寺派  
 大分教区基幹運動推進委員会  
 〒874-0920 別府市北浜3丁目6-36  
 本願寺別府別院内  
 TEL 0977-22-0146  
 FAX 0977-24-7831



「第31回九州地区真宗青年の集い 大分大会」 自転車発電。 ツアー編より

## いのちがゆらぐところ

事故米、メラミン混入、中国製冷凍ギョーザ等による中毒、数々の食品偽装……。今、私たちのまわりでは食の安全が大きく揺らいでいます。さらには地球温暖化による環境異変等、人間のみならず全ての動植物の命がおびやかされています。利益追求のためには他のいのちもかえりみない思い上がった自分中心の人間の姿がそこにあります。今まで間違いがないと安心していたものからたちまち裏切られていく現実、それが私たち人間社会の姿ではないでしょうか。

親鸞さまは「煩惱具足の凡夫・火宅無常の世界は萬の事みなもてそらごと・たわごと・真実あること無きに、ただ念仏のみぞまことにておはします」と、本当に裏切らない、人生を歩んでいく上であてになるものは阿弥陀さまのおこころだよとおっしゃっております。

阿弥陀さまはそのような私たちの姿のなかに願いをたてられ、「必ず救うぞ」と「南無阿弥陀仏」の声となり、力となって、いつでもどこでも、この私にはたらいてくださっています。

この阿弥陀さまにだけかれ日々生かさせていただく幸せをよろこびながら、地球環境にやさしい、自分にできるエコとはなにか考えさせられることでありました。

(大野組尊形寺住職 流 宗哲)

某月某日、某寺にて。

B男 御院家さん、こんには先日の法座の時に、よろこびの仏事とか言っ、祝い事もお寺でできるち言いよったなあ。

住職 はい。できますよ。  
B男 そんなら、今年三歳になる孫の「七五三」をしてもらえるかなあ。

住職 初参式は毎年しよるけど、「七五三」を頼まれたのは初めてですな。

「七五三」は

感謝の行事

B男 そもそも「七五三」ちゆうのは、どげな意味があるんじやろつか。「子どもの健やかな成長を祈って」とか、テレビのアナウンサーあたりが言いよる「たるけんど」。

住職 祈る行事だったら浄土真宗的ではないかも知れないから、ちよつと辞典でも引いてみましょつか。

ふむふむ。歴史は意外に浅いみたいですね。江戸時代に江戸で流行り始めて、関西に広まっ

たのは明治になってから、全国的には昭和になってからだそうですね。

B男 そげな最近のことかえ。  
住職 「髪置き」と「袴着」と「帯解き」の三つの儀式が合わさったとか……  
B男 「髪置き」ちや何かえ。

ペンペン草の境内地

㊸七五三もお寺で



次の「袴着」は。  
住職 「初めて袴をはき正装をして……」

B男 袴がはけるぐらいまで成長したお祝いといつことじやな。  
住職 「それまでの付け紐のついた幼児用の着物から、サイズ

るまで子どもが成長したことへの感謝の儀式みたいですね。幼くして亡くなる子どもが多かった時代には、現代とは違って感謝の思いが強かったのでしょう。「健やかな成長を祈る」とは、どこにも書いていないようですから、浄土真宗のお寺で「七五三」の儀式をしても全く問題はなさそうですね。

日取りは自由

B男 十一月十五日じゃねえと悪いんかのう。

住職 「五代將軍綱吉が、我が子徳松の三歳の髪置きの祝いをこの日に行った」ことから十一月十五日に行つたようになったようですね。稲刈りが終わって、各地の神社で収穫のお祭が行われるのに合わせたといい説もあるようです。

「しかし、もとは何歳で何の祝いといつ決まりはなく、決まった日に行つたというものでもなく、それぞれの成長に合わせて個々に吉日を選んで行われたもの」らしいから、B男さんやお孫さんの都合の良い日を選んでしましょつ。

揭示伝道

簡易法語揭示板

【宇佐組 極楽寺】



宇佐神宮の隣に極楽寺様があります。人通りが多いので揭示板に目をとめられる方も多い様です。

言葉は、その時々感じた事を中心にご院家様が考えて書かれています。今は辛い事が多いとのことでした。

ご院様は、仏教の歴史に詳しく、貴重な資料をたくさん展示していらつしゃいます。「どうぞ観に来て下さい。お待ちしています。」との事でした。一度観に行かれると感動される事と思ひます。

# 日常の中の仏教(6)

東 光 爾 英



## 【アミダ如来さま】

今回は浄土真宗の一番中心である阿彌陀如来さまについて、わかりやすくお話ししたいと思います。

まず「仏(=如来)」とは何だろう、ということから考えてみましょう。「仏」はインドの言葉「ブツダ」の音を訳して漢字をあてたもので、「めざめたもの」「覚者」という意味になります。

何に目覚めたのか、それは、私たちの苦しみは自分自身が生み出しており、その苦しみの原因は、ものの本当のあり方を知らないことから起こるのだ、という事にめざめて仏になるのである。

もともと仏教は、「生老病死」「四苦」の苦しみをいかに乗り越

えて生きてゆくか、という問題の解決として説かれたものです。ですから苦しみの原因を明らかにして、それを克服することによって仏という悟りの境地を得て、力強く生きてゆくこととする事が目的なのです。

「ものの本当のあり方」とは、常に変わらないものは一切無い(無常)こと、また私たちは互いにかかりあいながら存在しており、独立して存在するものはありません、関係ないものなど全く無い(縁起)というあり方なのです。これを仏教では「ダルマ=法」と呼びます。

この真実(法)を知り体得できれば「仏」という目覚めた者になるのです。

しかし、この真実を知識として知っても仏にはなりません。やはり苦しみ悩みがわき起こります。私たちが、目覚めることのできないのは、いままです身についたものの見方を変えることができない、つまり自己中心の思いを断ち切ることができない。私自身にその原因があるのです。では、とうてい仏になりよう

のないと知らされたこの我が身が、どうしたら仏になることができるでしょうか。

実は、親鸞聖人の苦しみもこの点にあったのです。聖人にとつて、自己中心という煩惱をいかになくすかという事はすでに問題ではなく、煩惱を持ったこの私がいかにして仏になることができるのかという事が問題でした。

その時、聖人が出会われたのが、『大無量寿経』に説かれる阿彌陀如来さまの、ご本願の救いであつたのです。

## 【阿彌陀さまのご本願】

『大無量寿経』の初めには、おシヤカ様がお顔をキラキラ輝かせてお出ましになり、本日は重要な教えを伝える、と説法が始まります。

「ある時、世自在王<sup>せじざいおう</sup>という仏が世にお出ましになつた時、一國の王がいて人々を救いたいと思ひ修行して菩薩になり法蔵(ホウソウ)と名のつた。彼はさらに全ての人々を救いたいと思ひ世自在王仏のもとへゆき指導を受けて、仏になるための願いを建てた。」

「法蔵菩薩は、その願いがはたらきあるものになるように、五

劫という長い間、修行し、ついに阿彌陀仏となつた、現に今、西方におられるはたらきつづけ、その国を極楽浄土という。」

とおシヤカ様が説いたのです。そのはたらきある願いは、全部で四十八あり、光明(智慧)や寿命(慈悲)が人々の考えを越えた仏になり、自分のナモアマミダブツという名を諸仏がほめたたえ、人々を必ず浄土へ生ま

せたいとの特徴ある願いで示したのが第十八番目の願で、特に「ご本願」と呼びます。その願いの内容は「私(法蔵)が仏になろうとするとき、全ての人々がまごころから本願を信じ往生を願ひ念仏して、もし浄土に生まれなから私も仏にはならない。」というもので、「人々が浄土に生まれ仏になる」とこと「自ら

の成仏」を一体に誓われることに重要な意味があります。

人々を浄土往生させるはたらきが無いなら、自分も仏にならない、と誓ひ、そして阿彌陀仏になられたわけですから、必ず人々を往生させるというはたらきある願いが「ご本願」であることとなります。

阿彌陀如来さまは、平等の慈悲をもたれるゆえに、最もすぐわれがたい、仏になりようのないこの私たちを、救いのめあてとして仏になられた方です。

これをしたならば、というよ

うな条件を全く必要とせず、自分の必ず救うという本願を受け止め、自己中心の我がごころを知らされながら、私の願ひに気づき、念仏でしっかりと生きてゆくように、と私たちにはたら



## 無常

入門 仏語 無常 すべてのは

変化する、常に同じ状態にはないのです。喜びや悲しみ、苦しみの心も変化していくのです。変化して行くから努力や工夫がなされたり、生かされて

いる今を大切にしようと思ひも出てくるのではないでしようか。

無常は一面では苦しみを生みませんが、未来の変化を楽しみとすることもできます。阿彌陀さまの智慧に導かれ強く明るく生き抜きたいものです。



# ビハラー法話

## 『ビハラーに見る共感』

大分ビハラー世話人 河野 智篤



「ビハラーという言葉を初めて知ったのは十五年ほど前だったと記憶しています。その当時は「仏教も、やっとホスピスに似た活動を始めたのか。」と思っただけでした。その後、特に深くビハラー活動に係わる事無く学生時代を過ごして、自坊に帰ってしばらく経った頃、本山のビハラー研修に参加しないか？との声がかかりました。京都は西山別院での研修、気楽な気持ちで参加した私の思いは、研修初日で打ち砕かれました。

「研修会には僧侶だけでなく、一般のご門徒さん方も数多く参加しており、参加に際しての気構えからして、私とは違っていました。今現在、親の介護をなさっている方、老人保健施設で働いていらっしゃる方、様々な理由、状況で、真剣に参加なさっている方々ばかりでした。忘れられないのが、癌だったご主人を取った経験をお持ちの方が、介護している時は夢中で一生懸命だったけれども、看取った後に、まだやり残した事があつたのではないか？という思いで参加させていただきました。」

「というご夫人です。多くの皆さんが介護に真宗を生かしたいと思っただけで、机上の学習ばかりでなく、半分ほどが実習でした。寝たきりになつた方の負担にならない起こし方や、シーツの替え方、おむつの替え方、食事介助の仕方、車イスの押し方などです。盲目の方の先導の仕方では、盲人の役と先導の役に別れて、盲人の役は目隠しをして、見えない状態で慣れない場所を先導してもらう事の恐怖を知り、先導の役では、歩くペースや、些細な声かけが安心感に繋がる事など、多方面にわたる福祉について教えて頂きました。中でも取り分けユニークだったのは、自分が紙おむつをはいで、用を足してみてもレポートを書くというものでした。このレポートは、一番抵抗感があつた反面、一番勉強になりました。人間が、出来る事なら最後まで他人の手を煩わせたくない一番の行動は、食事でも、入浴する事でも無く、用足しなのだそうです。これが一人で出来なくなつた時の悔しさ、恥ずかしさ、おむつに用を足した後の感触、気

# みらいちゃん



「持が悪さ、これを介護する側の人間が、知っているのといないのでは、介護の仕方に雲泥の差が出るのだそうです。」

この授業を受け終わった後、ここにビハラーの真髄を見た気がいたしました。

看護にしろ介護にしろ、する側とされる側では意識の上で大きな開きがあります。される側には、感謝があるので特に問題はないのですが、する側に立つと、私達は、優越感や、してあげている「意識が、知らず知らずのうちに芽生えてくるものです。しかし、それではビハラー活動とは、言えないのではしよう。

目隠しをして歩いてみて初めて、盲目の方の気持ちが想像でき、紙おむつに用を足してみても、自分で用を足す事の出来ない方々の気持ちがリアルに想像出来るのです。

そしてまた、今は健康で介護する側に立っている私も、いざれば介護される側になっていくのだという、明日をも知れぬ我が身のはかなさ、生きていく上で避けて通ることの出来ない、老、病、死。これらを他人事と見ず、わたくし事として接していく、百パーセントは無理にしても、出来るだけの想像力共感を持って介護に携わる事、これこそがビハラー活動の真骨頂なのではないかと教えられました。

## あとがき

今、「エコ」という言葉が流行しています。私も古新聞雑誌・ちらし・空箱・ダンボール・封筒・はがきなどをためて、婦人会の回収に出しています。

ある小学校で、空き缶・ペットボトル・ゴミ拾いをしたそうです。三十人の子ども達で、三十分もの間に十枚の袋がいっぱいになったそうです。最初は、いっぱい集まったと喜んでいた子ども達も、「先生、何でこんなにゴミが捨ててあるの？」と不思議に思ったようです。これだけ、エコエコと言われながら、口先だけののでしょうか？

子ども達に言う以上、私達大人ももっと意識をしなければと思いますが……。

「コンセントは？電気は？エアコンの温度は？生ゴミは？私は：今、古紙とグリーンカーテンに頑張っています！」

